

地域力を信じて...

医療・介護サービスと生活支援の助け合い活動
とのネットワークをどうつくるか



水と森の番人が創る癒しの里
川根本町地域包括支援センター

川根本町の概要

川根本町は静岡県の中央部に位置し、東は静岡市、南は島田市、西は浜松市に隣接し、町域は大井川に沿った東西約23km、南北約40kmの南北に細長い形で、このうちの約94%を森林が占めています。

| | | |
|---------|----------------|--------|
| ▶人口 | 6,413人 | |
| ▶世帯 | 2,832世帯 | |
| ▶65歳以上 | 3,174人 | |
| ▶高齢化率 | 49.5% | |
| ▶要介護認定者 | 615人(認定率18.9%) | |
| ▶身体障がい者 | 328人 | |
| ▶知的障がい者 | 62人 | |
| ▶精神障がい者 | 35人 | R3.4.1 |



>町の面積は、県下で3番目の広さ、広い土地に少ない住民が点々と暮らしている。



>地域包括支援センターのメンバー。人材が足りないので自分たちで資格をとる。

「資源が少ない町なら自分たちが資源になろう！」

自然にワンストップ?

税務住民課

- ・ 転入、転出 ・ 住民票等各種証明
- ・ 国保、後期医療 ・ 納税相談 ・ 滞納整理

くらし環境課

- ・ 環境衛生 ・ 動物 ・ 町営住宅

健康福祉課

- ・ 生活保護 ・ 障がい福祉 ・ 各種健診
- ・ 児童福祉 ・ 生活保護 ・ 民生児童委員

高齢者福祉課

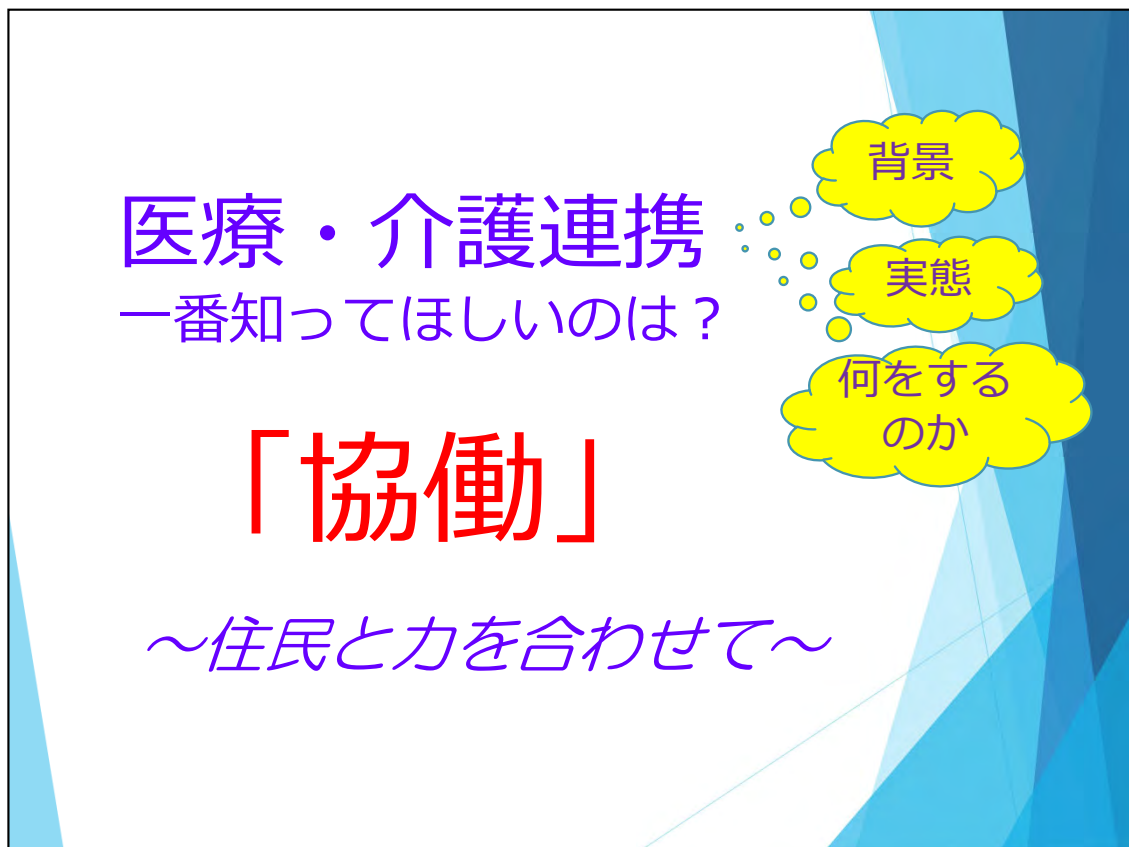
- ・ 介護保険 ・ 地域包括支援センター
- ・ 高齢者福祉 ・ 訪問看護ステーション

建設課

- ・ 道路 ・ 河川

> 地域包括支援センターは、直営で1か所。高齢者福祉課の中にある。

> 5年前からは、直営の訪問看護ステーションを、同じ課の中に立ち上げた。

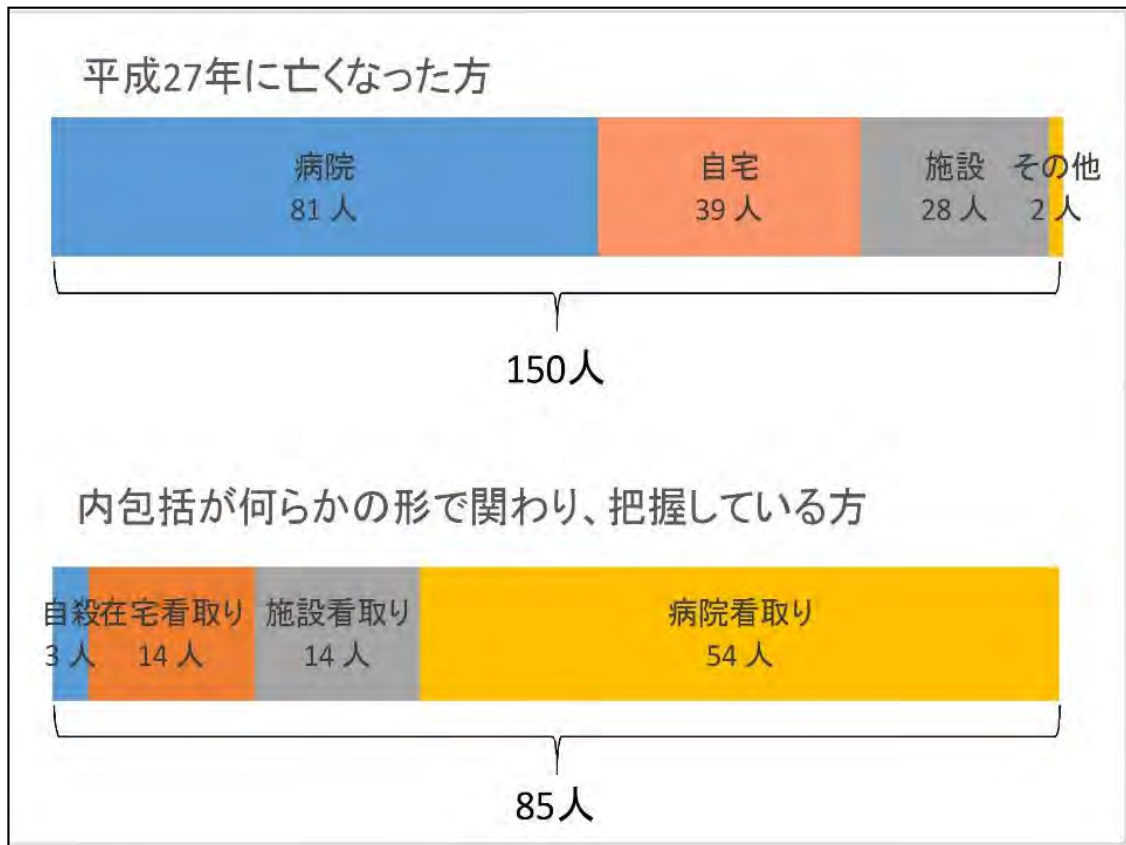


> 総合病院もなく社会資源が少ない中、医療、介護、福祉の専門職と住民が力を合わせている。

「最後まで、住み慣れた地域で、自分らしく」を言葉だけにしないように...



＞医療、介護やACP、介護予防の情報は、地域包括支援センターが全地区を巡回して住民に伝える。



> 亡くなった方のご家族への訪問調査の結果、こういったものを住民に伝え
ている。



●自宅での看取り

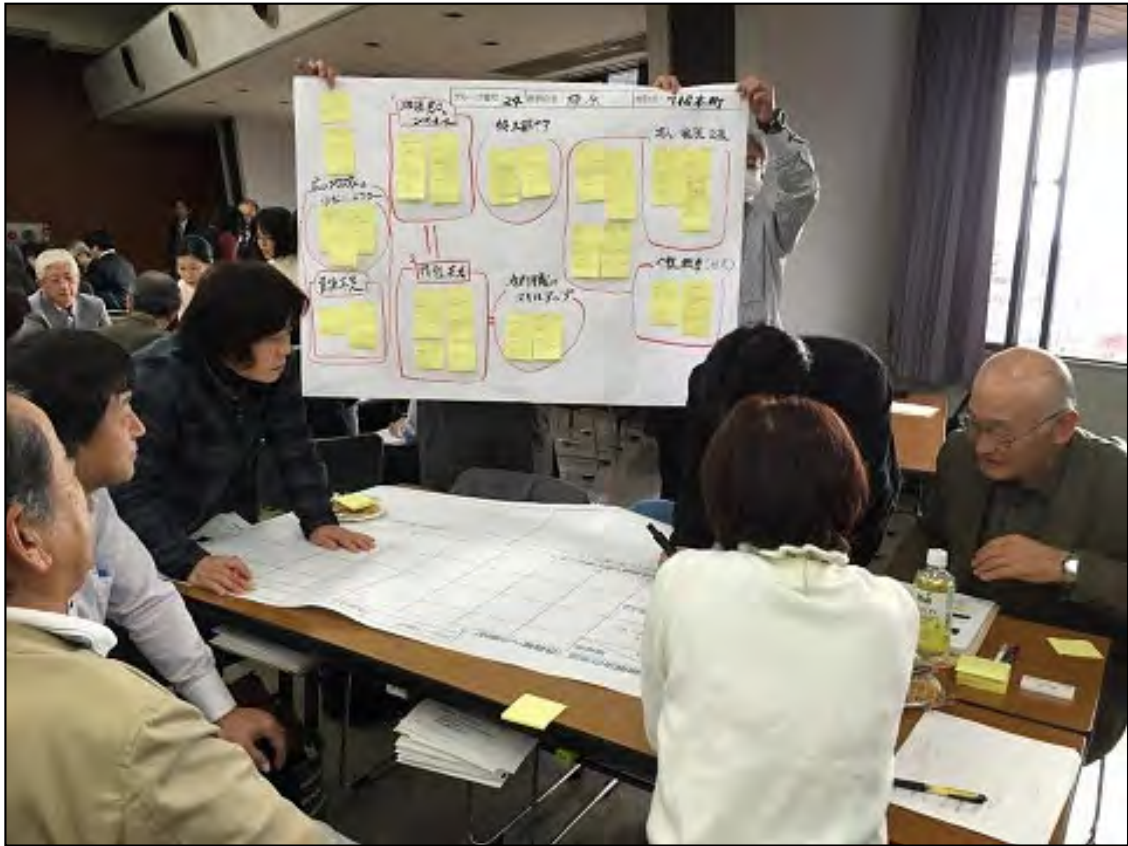
- ▶ 入院させようと迷っているうちに亡くなった。
- ▶ 本人も苦しんだし、家族も疲れた。
- ▶ 自分の家なので、用事をしながら介護できた。
- ▶ 本人もいつもどおりの生活ができた。
- ▶ 親戚に「なぜ入院させなかった」と責められた。

●病院での看取り

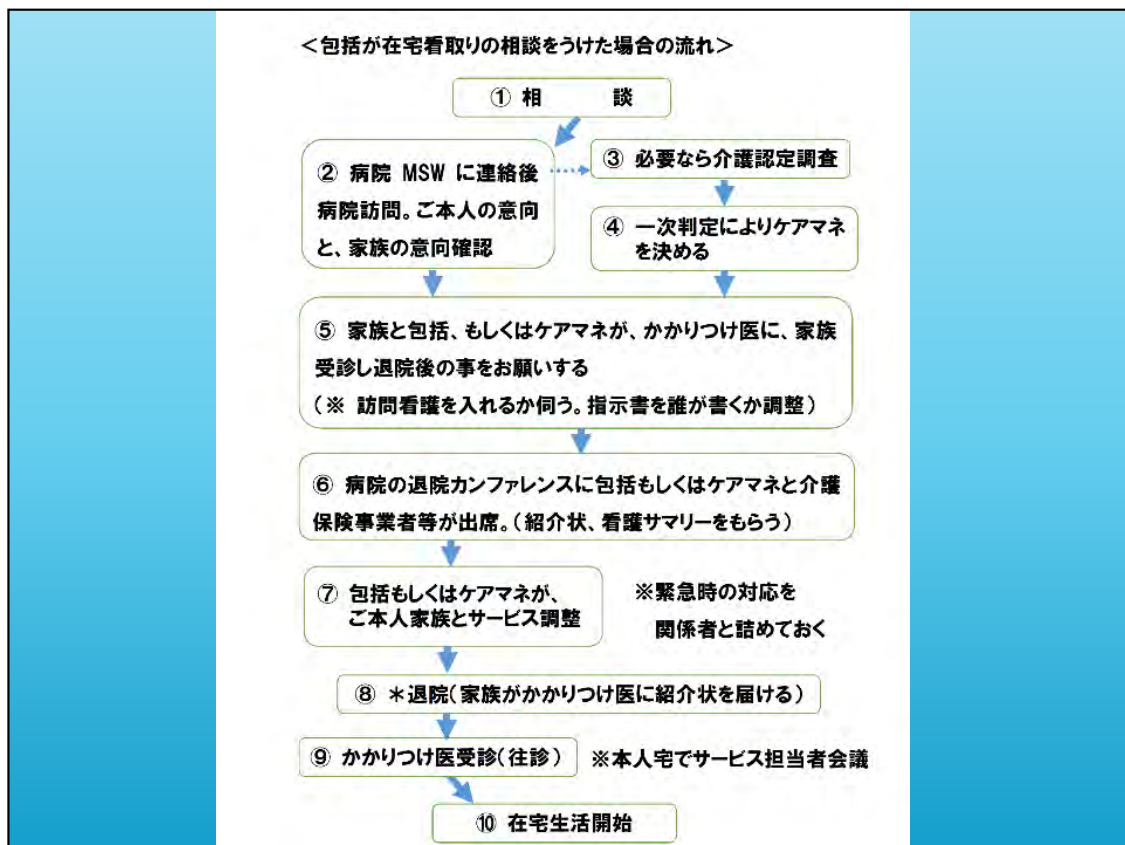
- ◆ 家族が介護しなくても看護師さんがやってくれるので、その分手を握ったり体をさすったりできて良かった。

> 訪問調査で聞き取った家族の声。

「良い終末イコール家で亡くなることとは限らないね」という住民の声も...このままで良いのか？



>「良い終末を在宅で！」をテーマに、医師やケアマネジャー、行政、介護事業所などと地域ケア会議を重ねた。



＞地域ケア会議を経てできた看取りの手引書の一部。

＞医療連携コーディネーターを担う地域包括支援センターに相談が入ると、このフローに沿って在宅療養が開始される。



- >前のページを住民向けに作りかえて、全地区巡回で説明会を行った。
- >住民から「自分が意識が無くなったら、“家で終わりたい”って言えないじゃん」の声。



>意識、意思のあるうちに、自分の思いを残せるようにするには...をテーマに、多職種が集まり地域ケア会議を行った。



>「私の大切なことメモ」の普及のため、地域包括支援センターで紙芝居を作り、全地区を巡回した。



- ＞紙芝居の後で、実際に「大切なことメモ」を記入してもらう。
- ＞2枚複写になっていて、1枚は自分、もう1枚を本人同意のもと地域包括支援センターが保管する。



> 診療所の医師も在宅医療に熱心に取り組んでおられる。訪問診療、往診も多い。



>戸数の少ない限界集落では、在宅療養をあきらめている人が多かった。
>その集落に医師が出向き、住民と懇談会。「家で終わることができるんだね」と安心する住民。



> 高齢者の通いの場に診療所の医師が出向き、健康の話をしたり、住民の心配事に答えたりしている。



- ＞ 歯科医師も、在宅療養や認知症施策に熱心。
- ＞ 通いの場に出向いて、オーラルフレイルや口腔ケアの方法を伝える。



>医療職だけでなく住民も「助けられる命は、みんなで助けよう」と救急法を伝えるボランティア「EMS川根本町」を立ち上げた。

>地域がら、救急車の到着前にAEDや心肺蘇生をすることもある。

みんなで知恵を出し合って

「協働」

～小さな課題は、すぐ形に～

> 在宅医療介護連携推進会議(多職種連携会議)と地域包括ケアシステム



>在宅医療介護連携推進会議の様子。

>この会議から「訪問看護ステーション」や「ちょこっと介護相談所」「ケアラーズカフェ」「ちょいサポ」などが生まれた。



＞同じ事務所に机を並べる訪問看護ステーション(奥)と地域包括支援センター(手前)

＞これにより、地域包括の職員は医療面のスキルを上げ、訪問看護師はソーシャルワークを身に付けることができる。

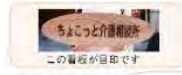
ちょこっと介護相談所

ができました



まつおか 英樹

お年寄りの介護が始まったとき
『おむつの替え方がわからない』『何を食べませ
たらいいの？』『どうやって車に乗せたらいい
の？』など戸惑うことがあるあります。
そんな“ちょこっと”教えて欲しい介護のコツを利
相談できることができました。



相談は電話でも直接施設に来てくださってもかま
いませぬ。
ケアマネジャーや看護師、介護士がわかりやすく
教えてくれます。



小規模多機能介護ホームまつおか本川根



グループホームまつおか
グループホームまつおかⅡ
小規模多機能介護ホームまつおか

連絡先

まつおか薬局ホームヘルプサービス
まつおか薬局在宅介護支援事業所
0547-57-2660
小規模多機能介護ホームまつおか
0547-57-1133
グループホームまつおか
0547-57-1300
グループホームまつおかⅡ
0547-57-1100
小規模多機能介護ホームまつおか本川根
0547-59-1150

>24時間365日運営している、小規模多機能介護ホームとグループホーム
が「ちょこっと介護相談所」を開設。

>「急に寝たきりになって、オムツのあて方もわからない」など駆け込みの相
談に、昼夜を問わず対応。



- ＞認知症サポーターを経て話相手ボランティアとなった住民が運営するカフェ。
- ＞認知症の方や介護認定を受けた人をはじめ、誰が来てもいいカフェ。



>元氣な高齢者が、弱くなった高齢者のゴミ出しやちょっとした買い物を手
伝う「ちょいサポ」



>ちよいサポさん(右)が、ガン末期のおばあさんと一緒に、畑を耕しているところ。



>コロナ禍...外出できなくなった高齢者の安否を心配して、地域ケア会議で対策を検討。

テレビ電話で「元気？」

川根本町 新型コロナで高齢者安否

新型コロナウイルスの感染拡大を受け、川根本町地域包括支援センターは2日、各世帯に設置されている告知端末機「かわねフォン」のテレビ電話機能を活用し、町民の安否確認を行った。3月から休止している高齢者サロン「ケアリースカフェ」の会員を対象に実施した。



画面越し笑顔確認

同町の温泉施設「創造と生きがいの湯」に池本祐子センター長や住民ボランティアら6人が集まり、名簿を基に各世帯に電話をつないだ。

ボランティアが「元気？」と問いかけると、会員らは「みんなに会いたい」「元気が出てきたありがとう」などと返答。画面越しに体操も行うなどして笑顔を交わした。

同センターは今後も週1回程度で安否確認を行う予定。池本センター長は「かわねフォンの使い方も慣れてもらい、会員同士で連絡を取り合う環境が生まれれば」と話した。

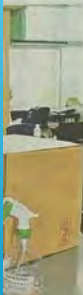
(島田支局・土屋祐心)
会員と画面越しに笑顔を交わす住民ボランティアら「川根本町の「創造と生きがいの湯」

事業者などに配布する次亜塩素酸水
川 島田市役所

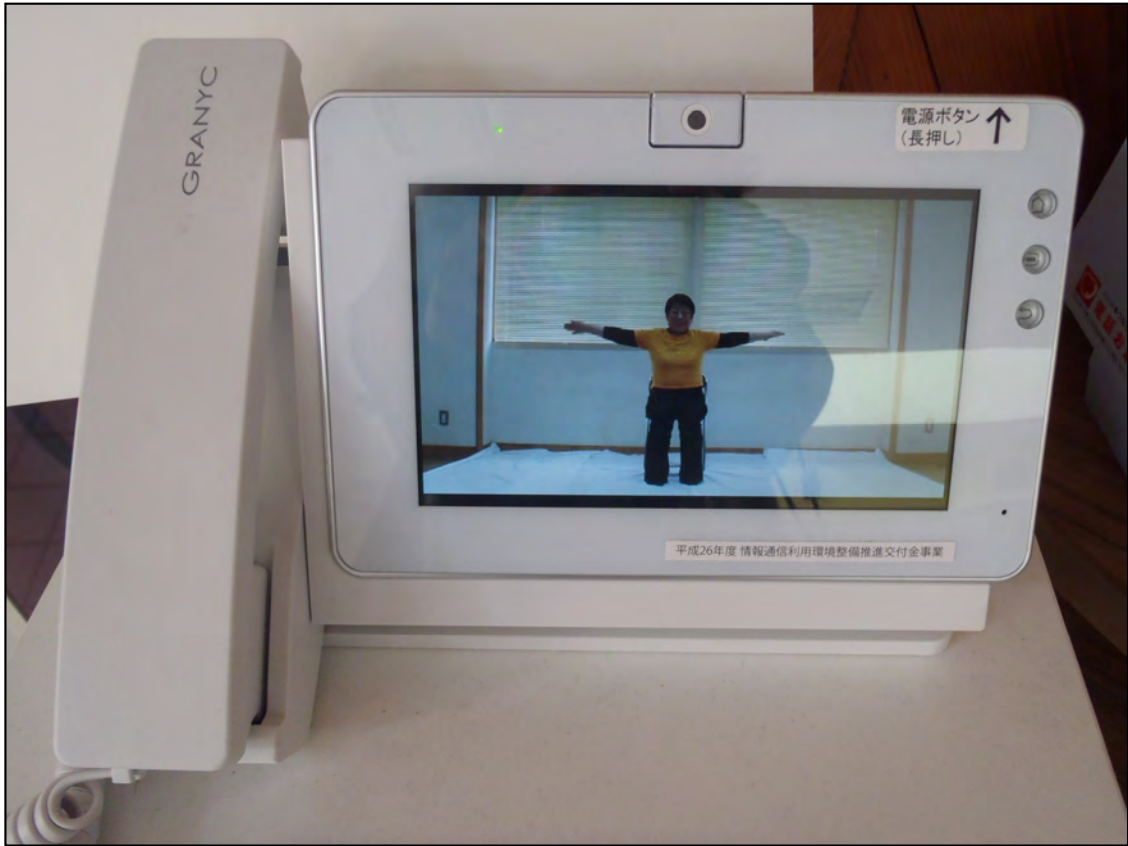
次亜塩素酸水配布

島田市 手洗いや食器洗浄使用

型コロナ対策



- > 地域ケア会議の結果、全戸に設置されているIP告知端末「かわねフォン」のテレビ電話機能を使い、話相手ボランティアが「お元気コール」をスタート。
- > 訪問看護師が糖尿病の人にインスリン注射のやり方を、テレビ電話でレクチャーすることもあった。



> 自宅に居ながら運動できるよう、地域包括支援センターとリハ職が、ご当地体操を作成。かわねフォンで動画配信。

終活の一助として

<趣旨>

近年、2040年問題や多死社会が議論され、終末期医療のあり方が問われています。終末期になると病院からは「もう、治療するところはないので、退院してください」と言われますが、家に帰りたくても帰れない、家族に負担をかけたくないと、結果的に、値段の高い施設等に入るしかないという高齢者が増えています。

「自分の人生を、どこで終えるか？」については、それぞれ考えは違うと思います。しかし、どこを選んだとしても、人生の終末期に、何日も天井を眺めて死を待つのは、あまりにも味気ないことです。

「故郷の山が見たい、海へ行きたい、結婚式に参列したい、若かりし日の思い出の場所に行きたい」そんな思いを描く人もいるでしょう。

「死ぬ前にやりたい10のこと」という映画がありました。そんな願いに寄り添い、その中の一つだけでもお手伝いしたいと、川根本町でボランティアを立ち上げたいと考えています。

旅支度の前に、その人に少しでも、ホッとした時間を過ごしていただくため、ぜひ、皆さんのチカラをお貸しください。

<対象>

- ・終末期（余命宣告1年以内）の患者とその家族

<金額>

- ・基本、無料
- ・移動に関するガソリン代、有料道路代、入場料等は、本人負担

<活動の流れ>

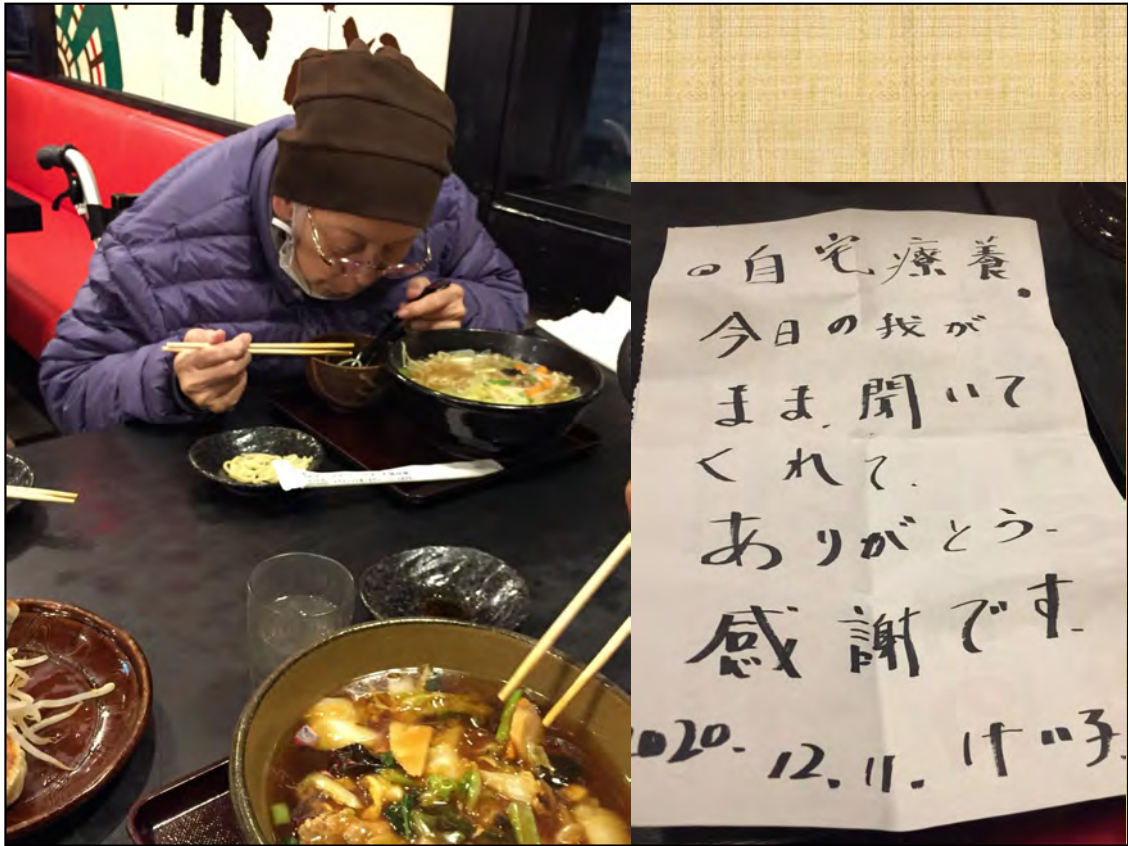
- ・本人、家族からの依頼
- ・事前に「家族・本人の同意書」
- ・医療機関との連携（緊急時の対応協議）
- ・日程（基本：土日）とルート調整。
- ・外出支援（現状、社協の貸し出し車両を想定）
- ・時間は、本人の状態を考え、長くても一日。（移動距離も、日帰りできる範囲）

<保険>

- ・ボランティアは、社会福祉協議会ボランティア保険に加入

>地域包括ケアシステムや在宅療養が推進される中、介護サービスの枠ではできないこともあり、そのジレンマを持つ専門職から声が上がリ...

>「亡くなる前にしたい事」を叶える専門職のボランティアが誕生。



>すい臓がん、余命4か月のけい子さん。本人は「家族に迷惑かけるから、療養病床へ行く」と言っていたが...

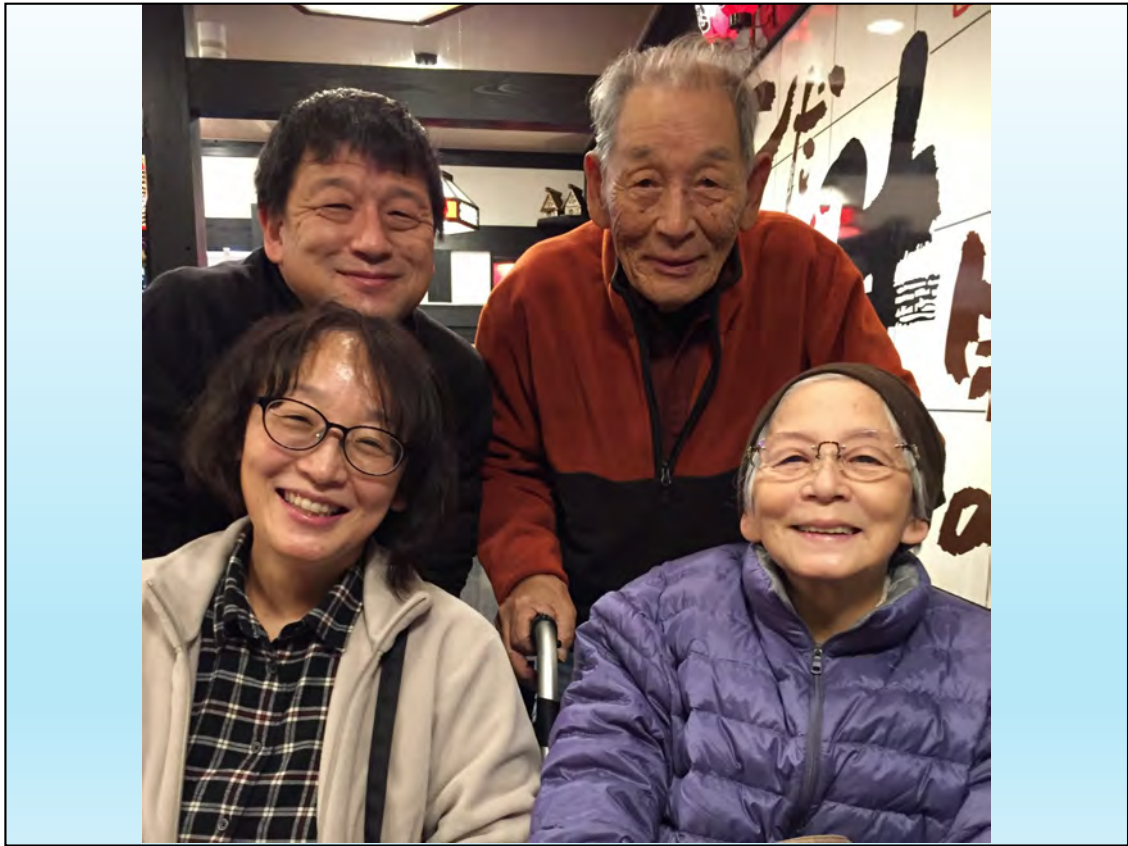
>地域包括支援センターが本人の意向を確認すると「本当は家に帰りたい」と泣き崩れる。

>コロナ禍、下手に入院すると最後まで会えないかもしれないと、長男が「もっと、ワガママを言え！」と母を説得し、在宅療養となる。

>「死ぬ前に、五味八珍のラーメンが食べたい」という母の思いに、ボランティアが同行することに。

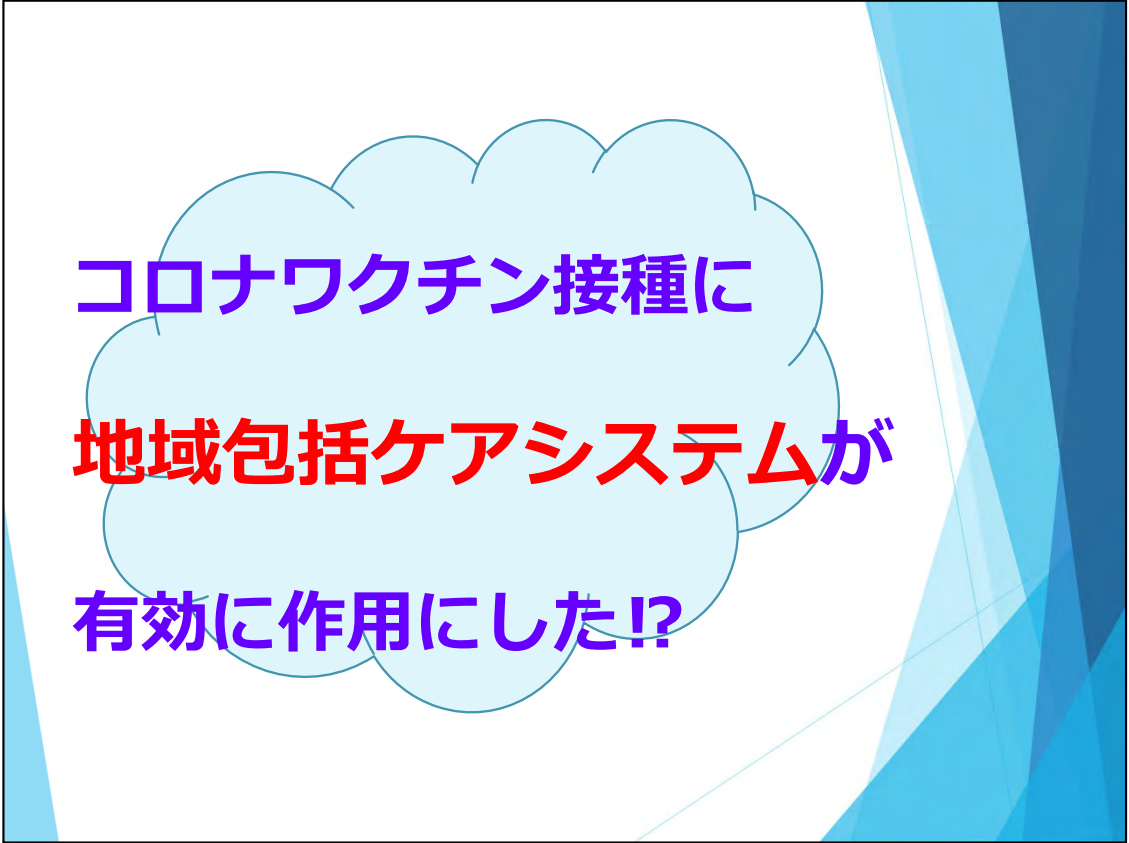
>ラーメンの前に好きなパチンコ屋に行き、フィーバーがかかって、家族は大盛り上がりだった。

>その後、ラーメンを少しだけ食べた後、けい子さんから家族へお礼の手紙が渡された。



> ラーメン屋でボランティアが家族写真を撮影。

> けい子さんは、この後も亡くなるまで吐血が続いたが「あの時、ラーメン食べといてよかった」と最後まで笑顔だった。



**コロナワクチン接種に
地域包括ケアシステムが
有効に作用にした!?**

＞一昨年、コロナワクチン接種を行うこととなったが、高齢者の多い川根本町にとっては“ネット予約”はハードルが高かった。

＞また、会場までの足の確保も課題となっていた。

役場内の連携（再掲）

税務住民課

- ・ 転入、転出 ・ 住民票等各種証明
- ・ 国保、後期医療 ・ 納税相談 ・ 滞納整理

くらし環境課

- ・ 環境衛生 ・ 動物 ・ 町営住宅

健康福祉課

- ・ 生活保護 ・ 障がい福祉 ・ 各種健診
- ・ 児童福祉 ・ 生活保護 ・ 民生児童委員

高齢者福祉課

- ・ 介護保険 ・ 地域包括支援センター
- ・ 高齢者福祉 ・ 訪問看護ステーション

建設課

- ・ 道路 ・ 河川

＞本来、ワクチン接種の担当課は健康福祉課だが、医療介護連携を担う地域包括支援センター（高齢者福祉課）も課を超えた協力体制を作った。

＞これをきっかけに、両課の専門職を束ねる統括保健師が誕生した。

< >

大切なワクチンを、一本も無駄にしないために・・

今回の予防接種は、完全日時指定です。

あなたの接種受付時間は

月 日 曜日

: ~ : です

持物:①同封された**接種券と予診票**
②**保険証か免許証**のどちらか

すみやかに接種を受けていただくために、下記のことを守りましょう

- ① 服装は半そでの上に脱ぎやすい上着をお願いします。
- ② 接種券と保険証(又は免許証)を忘れずにお持ちください。
- ③ 予診票は必ず記入して来てください。記入がないと接種の順番が後になります。
- ④ 予約日・予約時間厳守をお願いします。どうしても都合の悪い方はあらかじめ下記に連絡し、予約の変更してください。

予約変更等の連絡は

専用ダイヤル 58-6070

までお願いします。

>多職種で地域ケア会議を重ね「予約不要」「会場、日時指定」の集団接種で行うスタイルに決定。

>町内医師、看護師、保健師、NPOなどそれ以外の人々が一丸となって実施することができた。

安全に安心して接種を受けていただくために・・・

コロナワクチン接種説明会のお知らせ

コロナのワクチン接種にともない、下記により説明会を開催します。ぜひ、ご参加ください。

記

日時： 令和3年4月8日

9：30～10：10

会場：寸又峡公民館

内容：1、コロナってどんな病気？
2、予防接種の効果と副作用
3、川根本町の接種方法と接種を受ける際、気を付けること

持物：町から送られてきた接種券と予診票

* 予診票の書き方がわからない方は、説明会終了後、職員がお手伝いします。

担当：地域包括支援センター 池本

電話：56-2225



>当初、ワクチンへの理解が進んでいなかったため、住民が混乱したり不安にならないよう、全地区巡回で住民説明会を行った。



＞ワクチンの説明会を熱心に聞く住民。



＞ワクチン接種は、思いのほかスムーズに進んだ。「ネット予約しなくて済んで助かった」という声が多かった。



- > 町内診療所の医師が昼休みを利用して接種に協力。
- > この会場で、医師同士が交流し、連携が進んだ。
- > その後、歯科医師も研修を受け、接種者として協力。



>福祉用具の業者も会場に無料で手すりを付け、当日、ボランティアとして高齢者の移動を介助した。



>ちよいいサポの皆さんも、スタッフとして住民を誘導した。



>手前の接種者は、診療所の看護師、奥は訪問看護師。同じ会場で従事することで、後の看、看連携につながった。



＞ケアマネジャーが所属事業所と相談し、接種会場に来るのが大変な高齢者の送迎に協力。



＞雨でぬかるんだ接種会場の駐車場を整備する、役場職員と地元の消防団員。

